

ツミがシーアイハイツの森にやってきた

川内 博〔J棟〕

初登場の鷹

“ツミらしい鳴声が聞こえる！テニスコートとG棟の間”と夕方買い物にでた妻から電話がかかってきたのは7月下旬。駆けつけても確認できないことが2回。しかし、7月27日、ついにG棟前の木に止まっている2羽を発見。その姿をカメラに収めました。〔写真1〕



〔写真1〕 ツミの雌。ピョーピョピョピョと尻下がりの特徴のある声で鳴く

「ツミ」という鳥の名前はほとんどの方は初耳だと思います。漢字で「雀鷹」と書き、スズメなどの小鳥を獲物とする、ハトより少し小さい森林性の猛禽です。このマンションに30年以上住んでいます。ここでは初めての確認です。しかし、いつの日かこの森で繁殖するのではと日ごろ思っていました。

30年位前から市街地に

かつては、巣が日本中で4か所でしか見つからなかった珍しい鳥でした。しかし、1980年代からは東京の町田や多摩などの団地の小公園や街路樹などで営巣が発見され、90年代からは板橋区や練馬区内でも繁殖するようになりました。

森林性の鳥ですが、明治神宮のような大きな森ではなく、区立公園や児童公園、団地内の緑地、駅前通りの街路樹など“小さな緑”で繁殖するという特徴があります。また、営巣場所の近くにオナガが繁殖するということもよく知られています。

今回の観察場所のすぐ近くでは、オナガが子育てをしていましたので、“すわ繁殖か!!”と力を入れて調べを続けました。

親子で子育ての場所に利用

8月3日、G棟前で、雄から雌への餌の受け渡しを見ました。その後、今年生まれの若鳥を撮影しました。〔表紙写真〕それらのことから「ツミは近くで営巣し、子育ての場として1か月以上この地を利用した」と考えられます。敷地内での観察は8月いっぱい、9月3日には妻が市役所前の通りでヒヨドリにちょっかいを出す若鳥を見かけています。

〔6月～7月中旬にこの地でツミを観察された方はぜひ管理センターまでお知らせください〕

バードウォッチングの季節

この夏、こころなしか、さえずるシジュウカラやメジロなどの声が少なかったと思います。小鳥にとっては脅威だった猛禽・ツミが去った9月初旬、敷地内でエナガ〔写真2〕の群れを見かけました。これからはバードウォッチングに最適な季節です。陽だまりのベンチに座っていても、何種もの野鳥に出合えます。もしかしたら、新顔・イソヒヨドリの美しいさえずりが聞こえるかもしれません。



〔写真2〕 エナガ 最近、シーアイハイツの森の住人になった森林性の小鳥

(筆者は、日本野鳥の会東京幹事)